

手ひねり陶芸1日目を 開催しました！

1日目と2日目の2日間で、1工程という日程になっている自主事業「手ひねり陶芸」。

その1日目を11月18日（土）に開催しました。

この手ひねり陶芸は、事前に切り分けた粘土（約1500グラム程度）を使って手回しろくろ（各自が手を使って回すもの）で作品を作ります。大きなものだと高さ15cm、直径5cm程度の花瓶1本または、小ぶりなら高さ8cm直径4cm程度の湯飲み茶碗3個程が作れる量です。

各自が受付後研修棟2階で所員から、注意事項と成形の説明を受け、いよいよ開始になります。使用する研修棟は、主として陶芸関係で使用する部屋に割り当てており、1月に実施するろくろ陶芸（電動ろくろを使用して作成）の成形や2月に実施する絵付け陶芸でも使用する12畳ほどのこじんまりとした部屋です。

この工程の流れは、成形→仕上げ→乾燥→素焼き→釉薬かけ→本焼き→完成となり、そのうち、成形と仕上げの工程を行います。

第1日目は、成形する日です。

粘土は焼くと収縮するので想像している大きさより約2cm程大きく作る必要があります、参加者の方々は作成しようとしている器の大きさをイメージしてから器作りに入りました。まず、手回しろくろの中心に粘土を置き、粘土を均一で平らにするために手のひらでたたきます。指を使うとくぼみができるので、手のひらで均一にして平らにするのがコツです。

次に、手回しろくろを回し、まわっている向きに針先を向け軽く線だけを入れた後、描いた線にそって針で切り取っていきます。力の加減が難しそうですが、肘を固定した姿勢で指を上手に使い丁寧に作業をされていました。土台ができたならそこに水を軽く塗りつけ、紐状にした粘土を置き、土台の粘土と紐状粘土を指で押しつけ形を作ります。おおよそ2～3段ぐらい積み重ねました。つけた後のつなぎ目の線が内側や外側にあるので指でなでて丁寧に消す作業へと続きます。手回しろくろで粘土を積み上げるときに粘土に空気が入ったり、しっかりくっついていないと破裂して壊れたり、持ったときにとれてしまったりすると聞いて慎重かつ緻密にまた、力を込めて仕上げていきました。

今回参加された方は、とても手慣れた様子でテキパキと作業をこなさ

れまた、一つひとつの工程も丁寧にそして美しくこなされていたのがとても印象的でした。目指す大きさになるまで、繰り返し紐状粘土を積み上げていきます。なかなかこの作業が大変で、すこし指の形や方向が違っていると形がゆがんでしまうので、時間をかけ様子を見ながらじっくりと作業をされていました。最後に手回しろくろを手で回しながら逆の手でへらを持ち形を整えてなめし革で全体を美しく仕上げて完成。次回の仕上げ（削り）へと展開していきます。今回参加された方々は、実務経験を積んだ方やさまざまな場所で作陶された方が見受けられ、とても手慣れた様子で粘土を練り上げ形を作っておられた様子に感心して眺めていました。

2日目は、12月16日(土)に開催いたします。また、その様子をレポートしたいと思います。

活動の様子（午前の部）



活動の様子（午後の部）

